

3世代が繋ぐ、背広の浪漫
ツキムラ物語 PART 9

奈良の町で、親から子へと繋いでいった「洋服店」。そのタスキを受け取った現社長 岸伸彦氏の記憶と共にツキムラの軌跡、そしてこれからご紹介していくコーナーです。



岸社長

PRODUCED BY TUKIMURA

ツキムラの歩み

時代背景

2007年	生駒中央店のオープンに伴い、本部も移転	石見銀山が世界遺産に認定
2008年	秋葉原で初の東京展示会 阪神球場で100人客席を貸し切ってツキムラ応援団を開催 学園前店サミット (客・店・企業の交流会) 奈良ロイヤルホテルで100日店舗西本町にて大阪展示会	北京オリンピックが開催 リーマン・ブラザーズが経営破綻(リーマンショック) 松下電器産業がパナソニック株式会社に変更 バラク・オバマがアメリカ合衆国大統領に当選
2009年	大阪北船場店、京都北山店オープン	映画「おくりびと」「つみぎのいえ」がアカデミー賞受賞



上の写真は展示会の模様。会場は奈良に緑のある多くの人たちで賑わった。下の写真は展示会内の奈良らしいお部屋「月村茶屋」。

前回までのあらすじ
大正14(1925)年、奈良町の一角で創業されたツキムラ洋服店。その3代目として生まれた岸氏。20代で店を担い、貿易や縫製を勉強しながら株式会社ラガソットを設立。ラジオ番組や電車での広告に力を入れ、大学講演で出会った人材と共に事業を拡大していた。

**初の東京展示会
東京からみた
奈良のツキムラ**

東京で初の展示会をすることにしたのは、些細なことがきっかけだった。転勤や単身赴任で奈良を離れたお客さんから「生地見本を送ってほしい」との問い合わせがちらほらとある。全店舗でヒアリングをしてみると、600件近くあることがわかった。以前に測ったサイズでスーツを作ると、どうしても採寸時とズレが生じるし、シルエットにも流行がある。わざわざ遠いところからツキムラのスーツを注文してくれるお客様に新しいデザイン、今のサイズを測ってなんとかお届けできないかと岸氏は考え始めた。そこで、思いついたのは東京での展示会。しかし、今まで県外で商売をしたことがな

かった岸氏にとって、重い選択だった。井の中の蛙は一步を踏み出すのが怖い。洗練された東京、自分の背広がどこまで通用するかわからない……。

それでも、待ってこれているお客さんのために、3年前、意を決して東京展示会の準備に取り掛かった。会場に選んだ場所は秋葉原。ここは今や電気街として知られているが、近くの神田を中心にもともとは、洋服商が行き交う布地や繊維の間屋街だった。どこで展示会をしたらいいかすら分からない東京だが、どうせなら洋服のいわれのある地で行きたい。来場者に奈良を思い出してもらおうと、たくさんのお土産を用意した。顔ほどの大きさがある名物みか焼きや、鹿のふんのお菓子、大和茶……。奈良を思い出せるコーナーを作ろうと、地図や雑誌、写真などをあつめた用意して、東京に臨んだ。



1945年頃先代社長



そして当日。奈良に縁のあるお客さんで展示会は埋め尽くされていた。思ってもみない大盛況。用意した奈良土産に喜んで、お礼にと東京土産のお菓子を手渡してくれるお客さんまでいる。身構えていた岸氏は拍子抜けした。奈良の話題があり、普段のツキムラの空気が流れている。そこには奈良があった。「東京に知り合いがいたわけでもないし、チラシをまいたわけでも新聞広告をしたわけでもない。奈良の人に東京で展示会をする告知をしただけ。奈良を向いて吠えたところの結果が、不思議なことに東京で出たんです」。奈良にいる家族がDMを見て、東京の家族に連絡してくれていた結果だった。85年もの地で商売を続けてきて、おじいちゃんからお父さん、孫へとツキムラのスーツを着続けてくれた、お客さんと信頼関係。その大切さが改めて身にもたした。

「東京へ行ってみて、はじめて、奈良のツキムラ」という会社をみたんです。遠隔地に行っても、ちゃんとそこには奈良のゆかりのお客様がありました」。奈良に戻るとすぐに大阪の新店を考え始めた。大阪に働きに出ているお父さんの側にツキムラがある。仕事の合間にふと立ち寄れる場所を構えたい。大阪展示会の後に北船場に店をオープンすることを奈良で告知すると、またしても大阪で反響があった。それと同時に京都・北山にも店をオープンさせた。

どこに行っても奈良の人に支えられている。どこに行っても奈良の空気を持つていける。

東京展示会はツキムラにとって、大きな大きな躍進への一歩となったのだ。

(次号へ続く……)